

和's YAMATO

(わずやまと)

秋号
2013



NHK大河ドラマより『八重の桜』

北アルプスの燕岳

新天地・京都で開花した八重の才能

熊本バンドと熊本洋学校

◎零戦の産みの親 堀越二郎氏

◎お客様の紹介 物産ロジスティクスソリューションズ(株) 様

◎コラム『秋と酒』

◎名水百選 尚仁沢湧水



書斎。壁一面に書棚があり、約8割は洋書で、同志社の学生たちが図書館がわりに使っていた。



台所。当時の民家で一般的だった土間形式ではなく、床板の上に流しやかまどを置き、現代の住宅とほぼ変わらない近代的な造り。

新島旧邸



新島旧邸の外観。洋風の外観だが、内部は和風の間取りで、簡素な二階建て住宅。

同志社女学校で教員として充実した日々を送る八重であったが、学校運営と生徒指導に深く関わるアメリカ人宣教師とは意見の食い違いがはじまっていた。それがしばしば表面化し、夫である裏を悩ませたという。八重はクリスチャンになったとはいえ、元は会津藩の武士の娘であり、その教育方法はアメリカ人宣教師にとって、非常に理解されにくい面があったと想像される。武家出身と宣教師、日米の両教育者とも女子の教育の重要性を認識しながらも、その教育観にはある種の隔たりがあったといえよう。

しかし、この隔たりを埋める憩いの場が、新島邸であったのかもしれない。同志社女学校での人間関係は決して良好とは言えなかった八重だが、自宅の間は常に教員の会議や、教会として使われていた。こうした活動や学校運営に、公私の区別なく携わっていた八重の熱心さは、しだいに教員や学生にも伝わっていく。生来持っていた八重の裏表のいい気性が、アメリカ人宣教師との複雑な確執を乗り越えるきっかけとなった。

また、八重は裏の没後、邸宅内に茶室を設け裏千家の師範になるが、ここに

も八重が武家の娘として、日本文化を非常に大切にする姿勢が見てとれる。

最愛の夫・新島裏との永遠の別れ

八重と裏は同志社の運営で互いに手を携え充実した日々を送っていたが、二人の結婚生活はわずか十四年で終わることとなる。明治二十三年（一八九〇）一月、肺炎が悪化した裏は、四十七歳の若さで帰らぬ人となった。妻への最期の言葉は「グッバイ、また会わん」であったといわれ、信仰によって固く結ばれた二人の絆の深さをうかがい知ることができる。

裏の葬儀には同志社の関係者ら多数の参列者が集い、盛大に執り行われ、遺骨は京都中心部から東方の若王子山頂（にゃくおんじ）に埋葬された。新島邸には、裏の存命中から同志社の学生たちが絶えず訪れていたが、八重は裏の没後も、そうした学生たちと交流を続けていた。新島夫妻を慕う若者に対する八重の温かい眼差しと慈しみの心は、その後の奉仕活動への強い思いとなり、さらに昇華されていった。



新島八重肖像

明治11年(1878)、新島夫妻は自宅を建てた。場所は現在の京都市上京区寺町通丸太町で、新島裏が明治8年(1875)に同志社英学校を開校した場所だった。八重は、はっきりと意見を述べる妻として夫に接していたので、家を建てる時も、八重の意見は随所に取り入れられていたと考えることができる。(安中市新島旧宅展示パネル)

同志社で女子教育に情熱を傾ける

兄の覚馬を頼って明治四年（一八七二）に京都に移住した八重は、覚馬が手掛ける京都の産業復興事業を手伝っていた。明治五年四月（一八七二）には、公設の女子教育施設「京都女紅場新英学校」（後の府立第一女子高、現在の鴨沂高校）で教師の仕事を得て、以後は、教育者としての道を歩むこととなる。

八重は明治八年（一八七五）十月に、二番目の夫となる新島裏と結婚したが、その一カ月後に女紅場を解雇されていた。その理由は、八重が講義の中でキリスト教の話をしたため、それを知った横村正直京都府大参事が、キリスト教を取り入れた教育に警戒したためとされている。キリスト教が解禁になったのは、明治六年（一八七三）のこととで、それ以前は長らく禁教とされ、風当たりが強かった。

平成25年の大河ドラマ「八重の桜」は、明治維新後に八重が京都で新島裏と結婚し、同志社での教育活動に専念する姿を描いています。激動の時代に、進取の気性を持って活躍する八重と、ドラマに関連する歴史的な見どころを紹介します。

女紅場を解雇された八重は落胆することなく、「これで福音の真理を学ぶ時間がとれるわ」と、裏への手紙に書いたという。当時、八重のキリスト教への傾倒は裏からの影響もあり、日増しに強まっていた。明治九年（一八七六）一月二日、八重は京都で最初のプロテストメントとしての洗礼を受ける。その翌日一月三日に、八重と裏は京都で日本人最初のキリスト教式結婚式をあげた。裏が数えて33歳、八重が30歳の時である。

八重は裏と結婚後も、女子の教育に積極的に関わり続ける。明治九年（一八七六）四月に、同志社女学校の前身である女子塾がアメリカ人宣教師により開かれると、八重は開校当初から授業を受け持った。この女子塾は同志社女子大学のルーツといわれ、明治一〇年（一八七七）四月、同志社分校女紅場と名称が変更され、裏が校長に就任する。裏は教育方針として良心を保つことの大切さを掲げ、八重は同校の礼儀作法の教員となる。同年九月、同志社分校女紅場は同志社女学校と改称され、八重の母・佐久が学生の生活指導を受け持つ舎監に就任した。

1828	文政11年	1月 11日	● 山本覚馬生まれる
1843	天保14年	1月 14日	● 新島襄、安中藩江戸屋敷で生まれる (名は七五三太)
1845	弘化 2年	11月 3日	● 山本(新島)八重生まれる
1852	嘉永 5年	2月	● 松平容保(16)、第9代会津藩主就任
1861	文久 1年		● 襄、軍艦練所で航海学を学ぶ
1864	元治 1年	2月	● 覚馬、京都へ
		6月 5日	● 襄、函館発、上海を経てアメリカへ密航
		7月 19日	● 禁門の変(蛤御門の変) 覚馬、巧を挙げる。(功績中等)
1865	慶応1年	7月 20日	● 襄、ボストン着 船主の援助を受け、ジョセフと呼ばれる
1868	慶応4年	1月 9日	● 覚馬、京都で薩摩藩に捕えられる
		6月	● 覚馬、「管見」を薩摩藩に提出
		8月 23日	● 白虎隊自刃。籠城戦始まる この夜、八重ら夜襲攻撃
		9月 14日	● 西軍の総攻撃始まる 尚之助・八重、豊岡神社から砲撃
		17日	● 父権八(59)一ノ堰で戦死
		22日	● 会津藩降伏開城。夜、八重、和歌を詠む
1869	明治2年	6月 3日	● 松平容保嫡男・容大、御葉園に生まれる
		3日	● 覚馬、釈放。7月兵部省食客となる
1870	明治3年	4月	● 覚馬、京都府顧問就任
		7月 14日	● 鹿藩置県
			● 襄、アマースト大卒業、理学士
		9月	● 9月神学校入学
		10月	● 八重、母佐久、覚馬の妻うら、姪みね、 伯母の5人、米沢の内藤氏方へ
1871	明治4年	3月 15日	● 襄、ボストンで森有礼と会見、 留学免許状を受ける
		8月 3日	● 八重、佐久、みね、伯母、覚馬を頼り京都へ 覚馬、うらと離婚
			● 尚之助、斗南で飯米事件に連座、裁判となる
			● 覚馬二女栄生まれる
			妻時恵(旧姓小田)入籍
1872	明治5年	3月	● 襄、岩倉使節団の通訳を務める 5月欧州視察(1年4ヶ月)
		10日	● 第1回京都博覧会 (西本願寺、建仁寺、知恩院)
		4月	● 八重(27)新英学校女紅場の「出頭女」に着任 (～8年11月)
1873	明治 6年	2月	● キリスト教解禁
		8月	● 小野組転籍事件で覚馬、 八重東京へ(4ヶ月滞在)
			● 第2回京都博覧会。覚馬、英文の京都案内出版
1874	明治 7年	11月 26日	● 襄、神学校卒、米国より帰国。横浜から大阪へ
1875	明治 8年	1月	● 襄、大阪のゴードン宅にて同居
		3月 20日	● 川崎尚之助没(39)墓所・今戸称福寺
			● 襄、覚馬に面会
			● 八重(30)、襄(32)、 京都でゴードンの宿で初対面
			● 八重、襄に聖書を習う
			● 横村正直、襄に八重との結婚を勧める
			● 襄、覚馬宅にて同居(6月末～10月)
			● 僧侶ら、政府に同志社の 府外追放の建白書を提出
		15日	● 襄、八重婚約
		11月 18日	● 八重、女紅場を解雇される
		29日	● 襄(32)、同志社英学校開校
1876	明治 9年	1月 2日	● 八重(31)、ディヴィスより洗礼を受ける。
		3日	● 襄(33)と八重結婚
		4月 26日	● 襄の両親ら、群馬・安中より上京
		9月	● 同志社英学校、今出川に移転
		10月	● 徳富猪一郎(13・のちの蘇峰) 同志社英学校へ転入
		24日	● 八重、女性宣教師とディヴィス宅で 女子教育開始(生徒2名)
		12月 3日	● 母佐久、覚馬娘みね洗礼
1877	明治10年	4月 21日	● 同志社分校女紅場開設 八重礼法の教員となる
		12月 27日	● 覚馬、横村知事より京都府顧問解任される
1878	明治11年	春	● 徳富猪一郎の弟健次郎(のちの蘆花) 同志社英学校入学
		9月 7日	● 新島邸竣工
		9月 16日	● 同志社女学校開校。 母佐久、同校の舎監就任(～16年)
1879	明治 12年	3月	● 覚馬、京都府議会議員当選、初代議長就任
1880	明治13年	4月 13日	● 襄、生徒の同盟休校の責任をとり、 自分の手を自ら鞭打って罰した、自鞭事件
			● 徳富猪一郎(17)、同志社英学校中退

1881	明治14年	2月 11日	● 覚馬娘みね、横井時雄と結婚
1882	明治15年	7月 27日	● 八重と襄、横井時雄・みね夫婦と若松へ
1884	明治17年	2月 28日	● 松平容保養姉、松平照没(53)
		4月 6日	● 襄、欧米へ、覚馬校長代理 (翌年12月17日帰国)
1885	明治18年	5月 17日	● 覚馬(57)と妻時栄、洗礼 覚馬、京都商工会議所会頭就任
		6月 21日	● 覚馬娘久米、洗礼
1886	明治19年	2月 12日	● 覚馬、時栄と離婚
		5月 22日	● 襄、伝道のため若松へ 受洗式、説教会(256余名)
			● 仙台に東華学校創立(襄・校長) (～明治25年)
1887	明治20年	1月 20日	● 覚馬娘みね、長男平馬出産
		26日	● 覚馬娘みね没(25)
		4月 2日	● 京都婦人慈善会発会式、八重・襄夫婦で出席
		6月 11日	● 仙台・東華学校開校式 北海道避暑に八重・襄夫婦出発
		7月 14日	● 八重(42)、内藤(旧姓日向)ユキと札幌で再会
		11月 15日	● 同志社病院開院、京都看病婦学校開校
			● 覚馬娘久米、徳富健次郎(のちの蘆花)との 婚約破談
			● 横井時雄・みねの子平馬を覚馬の養子に
1889	明治22年	12月 27日	● 襄、病気のため大磯で静養
1890	明治23年	1月 23日	● 襄、大磯で没(47)
			覚馬、同志社臨時総長就任
		4月 26日	● 八重(45)、日本赤十字社社員となる
			● 覚馬没(64)。
1892	明治25年	12月 28日	● 八重(49)、裏千家入門
1894	明治27年	5月 8日	● 八重、日本赤十字社終身社員となる
1895	明治28年	6月 10日	● 八重、日清戦争で篤志看護婦として 傷病兵看護(広島)
		11月 18日	● 八重、日清戦争の従軍記章授与
1896	明治29年	5月 20日	● 母佐久、京都河原町の自宅で没(86)
		6月 1日	● 八重、日本赤十字社特別社員となる
		12月 25日	● 八重、勲七等宝冠章(民間女性第一号)
1897	明治30年	6月 8日	● 八重(52)、日赤篤志看護婦人会 京都支部幹事
1898	明治31年		● 八重、同志社女学校同窓会長就任 (翌年辞任)
1899	明治32年	5月 25日	● 八重、日赤篤志看護婦人会 ・看護学修行証を受領
1900	明治33年	4月 17日	● 八重(55)、米沢・甘糟三郎養女初子を養女に
1901	明治34年	4月	● 新島初子(20)同志社校長心得 ・広津友信と結婚
1905	明治38年		● 八重、日露戦争で篤志看護婦として 傷病兵看護(大阪)
1906	明治39年	4月 1日	● 八重(61)、勲六等宝冠章
1907	明治40年	12月 15日	● 八重、自宅の土地建物を同志社に寄付
1910	明治43年	7月 4日	● 八重、円能斎より 「今日庵名誉引沢」の許状を得る
1912	大正1 年	8月 1日	● 円能斎、八重の茶室に「寂中庵」の扁額揮毫
1915	大正4 年	11月 10日	● 八重(70)、大正天皇即位記念 ・大礼記念章受ける
1921	大正10年		● 八重、若松訪問
1923	大正12年		● 八重、円能斎より 茶道の許状「奥秘大円伝法」を得る
1924	大正13年	12月 8日	● 八重(79)、貞明皇后の 同志社女学校行啓で単独謁見
1928	昭和3年	11月	● 八重、昭和天皇即位大礼、 天盃一個授けられる
1931	昭和6年	9月	● 八重、会津大龍寺に 「山本家之墓所」碑を建立
1932	昭和7年	6月 14日	● 八重、京都の自邸で永眠(87) 17日社葬、若王子墓地に葬る



(安中市新島襄旧宅展示パネルより)

自鞭事件

自らの手を杖で打つ新島襄。学校に対する生徒の不満が起こり、生徒の集団不登校に発展したとき、新島襄はこの問題の責任は校長の自分にあるからそれを罰すると言いながら自らの左手を幾度も強打したという。



新島襄は明治22年11月に大学設立の募金運動のため前橋市を訪れたが、胃腸に激痛を覚え、12月には神奈川県の大磯で静養していたが、翌年1月23日に大磯で亡くなった。

八重の兄・山本覚馬は、戊辰戦争のさ中に京都で薩摩藩に捉えられ幽閉の憂き目にあう。しかし、覚馬が建言した国政への意見書「管見」が薩摩藩幹部に認められ、からくも幽閉が解かれる。その後覚馬は京都府の要職に就き行政・政

新島襄先生終焉の地の碑

同志社設立に貢献した

八重の兄・覚馬

八重の兄・山本覚馬は、戊辰戦争のさ中に京都で薩摩藩に捉えられ幽閉の憂き目にあう。しかし、覚馬が建言した国政への意見書「管見」が薩摩藩幹部に認められ、からくも幽閉が解かれる。その後覚馬は京都府の要職に就き行政・政

新島襄肖像画

実物は安中教会礼拝堂に飾られている(安中市新島襄旧宅展示パネル)



慈善事業を通じ社会に大きく貢献

明治二十三年(一八九〇)、襄が亡くなった年に八重は四十五歳となり、人生の後半にさしかかっていた。襄の生前から、新島夫妻は、たびたび災害を受けた人々への寄付を行っていた。明治二十四年(一八九一)、八重は日本赤十字社(日赤)に加盟し、若い看護婦の指導的立場で、日赤の活動に加わり始める。当時の日赤の主な活動は、第一に戦争時の看護活動であった。もともと、日本赤十字社の起源は「博愛社」という組織と言われている。博愛社は、明治十年(一八七七)、西郷隆盛が拳兵し政府軍と戦った西南戦争の際に、敵味方の区別無く傷病兵の救護活動を行った。そ

うした博愛社の活動を、日本赤十字社が受け継いだといえよう。明治二十八年(一八九五)、日清戦争が起こると、八重は広島で看護活動に携わった。八重は常にキリスト教の精神に基き、幼い子供たちに教育を施し、戦争で傷ついた人々を癒し続けた。会津では自らも戦火に巻き込まれた八重は、弱者への温かい眼差しを終生忘れることはなかった。常に博愛の精神を持つて周りの人々に接し、自らの使命を全うする生き方を貫いてきた。大きな時代のうねりの中を、懸命に生きた八重の姿は、現代に生きる我々に、今なお鮮烈な感動を与える。

覚馬の娘・みねは、明治十四年(一九八一)に、横井小楠の長男である時雄、(後の第三代同志社総長)と結婚する。横井時雄は明治九年(一八七六)に熊本バンドに加入し、同志社に入学した。熊本バンドとは、明治四年(一八七二)に開校した熊本洋学校の生徒の内、キリスト教の信仰によって結ばれた35名の生徒を指す。熊本洋学校は熊本バンド結成の年に閉鎖され、時雄らは新設間もない同志社英学校に転校、キリスト教への学びを深めた。熊本バンドの中には、八重と親交があった徳富蘇峰(猪一郎)や、その弟の徳富蘆花(健次郎)もいた。



新島襄(右)から徳富蘇峰(左)に贈られた西洋梓「カタルパ」の花
(徳富記念館展示パネル)

蘇峰は明治19年(1886)に言論団体・出版社の民友社を設立、平民主義の立場から雑誌「国民の友」や「国民新聞」を発刊したが、日清戦争後は国家主義へと傾斜していった。94歳で死去。



伊香保温泉から榛名湖へ向かう徳富蘆花
昭和2年(1927)の古写真(徳富記念館展示パネル)。蘆花の小説「不如帰」はベストセラーで、ロシアの文豪・社会運動家のトルストイに傾倒する。兄の蘇峰は国家主義的傾向が強まり、蘆花とは絶縁状態になるが、昭和2年(1927)に病臥し伊香保温泉で蘇峰と和解、58歳で死去。
(徳富記念館展示パネル)



ジェーンズ邸の外観(熊本洋学校教師館)
明治10年(1877)に発生した西南戦争では、征伐大総督有栖川宮熾仁親王のご宿所となった。(熊本市水前寺公園内)



横井時雄肖像画

同志社卒業後はキリスト教伝道者として活動し、内村鑑三を支援した。同志社第3代社長(現在の総長)を務めた後は政界に転身、明治

36年(1903)に立憲政友会公認の衆院議員となる。昭和2年(1927)70歳で死去。
(ジェーンズ邸展示パネル)



横井小楠が開いた私塾「四時軒」

小楠は開国論を説き、越前藩主松平春嶽の政治顧問となる。維新後も新政府内で提言を行い、識者として重用されていたが、明治2年(1869)に反開国派の武士によって暗殺される。
(熊本市沼山津1-25-91)



横井小楠像

小楠は同志社第3代総長・横井時雄の父。徳富蘇峰・蘆花の父は小楠の一番弟子。「熊本バンド」のメンバーは小楠の影響を強く受けている。小楠は坂本龍馬、勝海舟と交流があり、鎖国や幕藩体制を批判、国家と社会の成り立ちを公共と交易に求める現実主義者だった。

熊本洋学校の校舎

横井小楠が興した実学党によって設立された。
(ジェーンズ邸展示パネル)



ジェーンズの肖像画

ジェーンズはアメリカの退役軍人で、明治4年(1871)から熊本洋学校で授業を開始し、その後は鹿児島高等学校や大坂英学校で教師を勤めた。明治42年(1909)に72歳で死去。(ジェーンズ邸展示パネル)

花岡山(標高132m)山頂から熊本市街地を望む。
毎年1月30日の朝、熊本バンドを偲び記念祈祷会が行われている。



徳富記念園内の旧邸(熊本市中央区大江 4-10-33)
明治3年から徳富蘇峰・蘆花兄弟が幼少期を過ごした旧邸で、明治15年から19年まで蘇峰の設立した自由民権私塾・大江義塾に使われていた。

熊本バンド

熊本洋学校は、明治四年(一八七二)9月、西洋の文物や技術を移入するため、アメリカ人のリロイ・ランシング・ジェーンズを教師として招き開校された。英語、数学、地理、歴史、物理、化学、天文、地質、生物など多岐にわたる授業があり、講義はすべて英語で行われていた。徳富蘇峰、徳富蘆花、横井時雄(横井小楠の長男)ら、後に同志社と関わる有為な人材が多く学んでいる。明治七年(一八七四)には日本で初めて男女共学を取り入れるなど、進歩的な学校運営を行っていたが、キリスト教結社の一つである「熊本バンド」の影響で、明治9年(一八七六)8月には廃校となった。

熊本洋学校

至近の花岡山の山頂で祈祷会を開き、キリスト教をもって祖国を救うという主旨の奉教趣意書に署名誓約をする。キリスト教が禁教ではなくなった頃とはいえ、当時としては非常に過激な行動であり、この影響で洋学校は廃校となってしまった。

ジェーンズはアメリカン・ボード(北米初の海外伝道組織)の宣教師に依頼し、奉教を表明した生徒たちに対し、同志社英学校への転校の道筋をつけるよう試みた。その結果、生徒たちは同志社英学校に入学、本格的にキリスト教を学ぶこととなった。この熊本のグループは『熊本バンド』と呼ばれ、横浜の宣教師・ブラウンやバラに指導された『横浜バンド』、クラーク博士によって設立され内村鑑三が学んだ札幌農学校の『札幌バンド』とともに、日本三大バンドと称されている。これら三大バンドは、日本プロテスタントの源流の一つに位置すると言える。

熊本バンドに所属していた横井時雄は、明治十四年(一八八一)に山本覚馬の娘・みねと結婚し、後に同志社の第三代総長を務め、同志社の発展に貢献した。

熊本バンドと熊本洋学校



熊本バンド奉教の碑

「熊本バンド」とは、同志社の宣教師がつけたといわれ、熊本から来たグループという意味。横井時雄、徳富蘇峰、徳富蘆花ら、日本の近代市民社会形成の上で大きな役割を果たした人物が同志社に入学した。



熊本バンド記念地の碑

花岡山の山頂にある。
右奥は熊本バンド奉教の碑。

1 城山展望台。

桜島や鹿児島市内を一望できる。西南戦争の際には、この地に薩摩軍の本営が置かれていた。



2 西郷隆盛洞窟

劣勢となった薩摩の西郷軍は、明治10年(1877)9月1日、この洞窟に立てこもった。



3 西郷隆盛終焉の地

明治10年(1877)年9月24日、政府軍の一斉攻撃で西郷は銃弾を受け、この地で切腹したと伝えられている。

6 鶴丸城跡

薩摩藩主の居城で、現在は歴史資料センターとなっており、往時を偲ばせる濠や石垣が残っている。

西郷隆盛終焉の地
関連史跡



4 5 私学校跡

明治6年(1873)、政府内の対立で下野した西郷隆盛は、士族のための私学校を創設。西南戦争の最終局面では薩摩兵が私学校に立てこもり、多くの銃弾が撃ち込まれた。今でもその石垣が残り、記念碑が建てられている。



私学校跡記念碑

7 西郷隆盛銅像

昭和2年(1927)、西郷隆盛没後50年を記念して建立が計画され、昭和12年(1937)に完成した銅像。陸軍大将の正装で、台座を含めた高さは約14m。



薩摩藩の軍事力

西欧列強が東アジアに進出した19世紀、薩摩藩主第28代島津斉彬は防衛のために西洋式の反射炉や溶鋳炉を建設し、鉄製大砲を製造した。仙巖園(鹿児島市・島津家の別邸)にその遺構や複製があり、近代化産業発祥の一端を見ることができる。



仙巖園内にある
反射炉(基礎部分)の遺構

反射炉は鉄製の大型大砲を製造するために築かれた。安政4年(1857)に完成した。

反射炉の想像図(上部のみ)

燃焼室の熱や炎を、天井や壁に反射させて溶解室の鉄を溶かすという構造から、反射炉と呼ばれた。

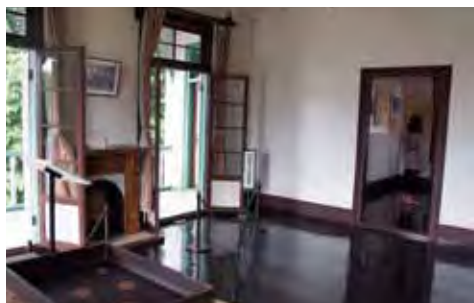
鉄製の150ポンド大砲の複製



ジェーンズ邸

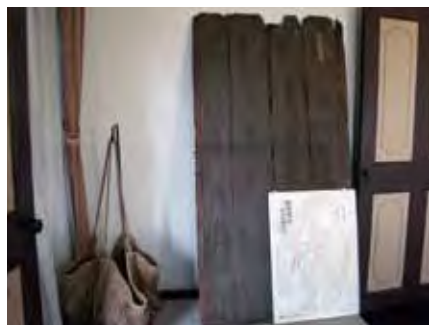
日本赤十字社の前身である「博愛社」発祥の建物でもある。2階には、日赤記念館として、博愛社関連の展示コーナーがある。

ジェーンズ邸2階の「博愛社」誕生の部屋



たばろざか

西南戦争の激戦地であった田原坂の戦いの最中、元老院議員の佐野常民は、国際赤十字のように、傷ついた兵士を敵見方の区別なく救う民間の救護団体設立を政府に働きかけたが許可がおりず、明治10年(1877)5月にこの場所に有栖川宮熾仁親王殿下を訪ねて設立を直訴、殿下のご英断で博愛社が設立された。



博愛社が西南戦争の最中に、負傷者を運ぶために使用した戸板とものこ。



熊本城での西南戦争の屏風図

熊本城を包囲していた薩摩軍は、政府軍のはさみ討ちに遭い、撤退を余儀なくされる。(ジェーンズ邸展示パネル)

西南戦争

明治十年(一八七七)、現在の熊本県・宮崎県・大分県・鹿児島県において、西郷隆盛を盟主にして起こった士族による武力反乱が西南戦争である。明治初期の一連の士族反乱のうち最大規模であり、日本最後の内戦となった。江戸幕府は長く藩が主体の、いわゆる地方分権制度を取っていた。明治維新によって幕府は解体したが、その後も薩摩や長州などの藩は存続していた。明治四年(一八七一)、廃藩置県が実施され藩が廃止されると、武士は藩からの給与が無くなり、経済的に不安定な待遇となっていく。また、身分制度も四民平等が定着し始め、廃刀令で帯刀も禁止、士族の特権が剥奪され、藩を支えていた士族の不満は頂点に達した。

こうした情勢の下に起こった西南戦争で、西郷軍側は近代兵器が非常に乏しく、政府軍側は大砲の数や砲弾の補給などを考慮すると、圧倒的に有利であった。しかし、西郷の拳兵に呼応して、日本各地で士族の反乱が起これば、再び国内で戊辰戦争のような内戦も起こりえた。しかし、そうした流れに至ることなく、西南戦争は終焉を迎え、日本の歴史の中から、武士という存在は消滅していった。

西南戦争においては、士族を中心とした西郷軍に、民間人の徴兵を主体とした政府軍が勝利した。この戦争により、士族出身の兵士も農民出身の兵士も戦闘力に大差がないことが実証され、徴兵制による国民皆兵体制が定着していく。

当時政府軍側は、勝利の原因が近代的装備、火力、通信手段、指揮能力の優位性にあったことを把握していた。そのため、西南戦争後の軍の近代化路線においては、徴兵を基盤とした常備軍を置き、装備統帥のさらなる近代化を追求することとなった。また、官僚制も確立され、太平洋戦争による敗戦まで続く、強固な軍閥主導の政治体制が始まったのである。

零戦の産みの親

映画「風立ちぬ」のモデル・堀越二郎氏



戦闘機の設計を手掛けていた堀越氏(中央)。1937年撮影(所沢航空発祥記念館展示パネル)

今夏公開され話題を呼んだ、アニメーション映画「風立ちぬ」の主人公は、群馬県藤岡市出身の堀越二郎氏をモデルにしている。忘れ去られようとしている昭和の日本人、航空技術の進展に人生を捧げた堀越氏の、実直勤勉な技術者像を探ってみた。

航空機に憧れた少年時代

明治三十六年(1903)、アメリカのライト兄弟が世界で初めて飛行機で空を飛んだ、その同じ年に、堀越二郎氏は群馬県藤岡市に生まれた。堀越氏が小学生だった大正三年(1914)、欧州では第一次世界大戦が始まり、戦闘機による戦いが本格化する。当時、堀越少年は大戦で活躍する飛行機の記事や雑誌を読みふけり、自由に空を飛ぶことを夢見ていたという。しかし、パイロットを志すには視力が弱すぎ、飛行機を操縦するのはあきらめ、しだいにその設計への興味を抱くようになった。

幼少時から秀才の誉れが高かった堀越氏は、藤岡中学校を卒業後、エリートコースの第一高等学校に進学、さらに、航空技術者を目指して東京帝大航空学科に進む。学生時代の堀越氏は、何事も徹底的に調べた上で、その結果に基づき確かな結論を出す人物であり、同級生からは、緻密な頭脳の持ち主と評価されていた。

理想の飛行機を求め試行錯誤

堀越氏は帝大卒業後、三菱内燃機製作所に入社、いよいよ飛行機設計者への道を踏み出す。入社二年後の昭和四年(1929)には、社命で欧米研修に旅立ち、約2年間にわたり先進技術を吸収する。当時、日本の航空技術はアメリカ、ドイツなど欧米に比べ大きく遅れていたため、その挽回を期すための研修であった。

昭和六年(1931)、日本は世界情勢を考慮し、「航空技術自立計画」を進めることとなり、官民で協力して日本人による独自の飛行機開発に着手する。その試作機の第一弾が、堀越氏らが設計した「七試艦上戦闘機」であった。これは試作機の墜落などで失敗に終わったが、その失敗を元に材料、構造に新たな改良を加え、昭和九年(一九三四)、九試単座戦闘機を設計、二年後には正式採用される。この成功が大きな転機となり、さらに次の十二試艦上戦闘機(零戦)へと、大きく発展していった。

美しい戦闘機・零戦の誕生

堀越氏が三十四歳になった昭和十二年(1937)、海軍から十二試艦上戦闘機(零戦)の制作が発令された。空戦性能、速度など、その性能要求は高水準を極め、実現可能なら間違いなく世界最高レベルの戦闘機になるが、技術者にとって、当時それらの要求は無理難題とも思えた。しかし、国運をかけて戦う戦闘機を作る使命に燃えた堀越氏は、不可能を可能にすべく、熱い思いで設計に挑んだ。

従来の日本の戦闘機の既存概念を打ち破るかのように、堀越氏は機体の美しさを考慮しつつ、大まかなデザインを描き出した。「機能的に優れたものは美しい」とする氏の信念に基づき、戦闘機の胴体のラインから、直線形の主翼の先端が羽のように分かれ、絶妙なバランスで優雅に延びている。そうした外形のデザインが



海軍零式艦上戦闘機五二型の実物 □全幅11m □全長9.1m □航続距離1,920km
(所沢航空発祥記念館)



前橋市街地の約80%が空襲で焼失、中島飛行機前橋工場(現けやきウォークの敷地)は焼失したが隣接の理研工業は被災を免れた。
(昭和20年)

決まると、次の段階として性能要求に応えるため、血のにじむような試行錯誤が始まった。技術的に最も腐心したのは重量を軽くすることであったが、当時開発されたばかりの超々ジュラルミンを世界で初めて主翼の一部に採用し、ついに大幅な重量軽減が実現した。こうして誕生した零戦は、その優美な姿だけではなく、すばらしい機能をも兼ね備えた戦闘機として、太平洋戦争で華々しく活躍する。零戦はアメリカ空軍に「ゼロ・ファイター」と恐れられ、「ゼロとはけして一対一の格闘戦をするな」とまで言わしめた。今や伝説とも化した日本の誇る戦闘機は、大国アメリカにも、その実力をまざまざと見せつけたのである。

教育畑で日本人の技術者魂を伝承

昭和十七年(1942)、堀越氏は本土空襲のさなか、零戦の後継機となる烈風の設計に、ひたすら没頭していた。だが、戦況悪化による物資不足や人手不足で、その開発は思うように進まなかった。それから3年後、昭和二十年(1945)、終戦の詔勅をラジオで聞いた堀越氏は、「これで私が半生をこめた仕事が終わった…」と全身の力が抜けたという。

戦争の傷跡がようやく癒え始めた昭和三十二年(1957)、堀越氏は第二次大戦後初めて日本のメーカーが製造した、旅客機・YS-11の設計に携わる。その後、防衛大学校教授、日本大学工学部教授に就任、教育者としての道を歩み、後進の技術者を育てていった。自著「零戦 その誕生と栄光の記録」の中で、堀越氏は次のように回想している。

「零戦こそ当時の日本人の創意と不断の努力が、みごとに結晶したものだったということを、多くの日本人および世界の人が認めてくれている。そして、その零戦を生みだした技術の伝統や技術者魂は、いまなお、日本人の中に生きていると思う」。

軍用工場の技術者集団によって創業されたヤマト

第二次世界大戦の終戦直後、ヤマトの前身である「大和光機製作所」を立ち上げた羽鳥治良松氏、柴山大五郎氏は、軍用設備などを設計・製作する、群馬県前橋市の理研工業に勤務していた。

当時、戦争によって国内の社会基盤が大きく破壊されていたため、復旧を目指す様々な工事は、非常に重要な仕事となっていた。ヤマトの創業に携わった人々は、戦前に蓄えた確実な技術力を用い、国民の生活を支えるための設備工事を、いち早く手がけていった。社会の復興に貢献する昭和の技術者たちが作った会社、それが今日あるヤマトの発祥といえよう。(詳細は、大和設備工事50年史に記載しています)

お客様紹介

物産ロジスティクスソリューションズ株式会社様

総合的なロジスティクスソリューションで食の品質保持と向上に貢献



1日約180台のトラックで商品を配送します

物産ロジスティクスソリューションズ株式会社様（本社：東京都港区）は、三井物産株式会社100%出資による戦略的ロジスティクス企業です。「ロジスティクス」の語源は軍事用語であり、企業を取り巻くすべての物流活動を指します。さらに、企業の経営戦略と密着して生産・販売・流通を一体化し、関連する諸企業と連携しての活動を含みます。物産ロジスティクスソリューションズ株式会社様は、倉庫業・配送業の枠を超えて、総合的なロジスティクスソリューションを全国的に展開しています。

食品・小売業界においては、流通コストの削減や商品の安定供給、配送の迅速化などへのニーズがより一層高度化・多様化しています。物産ロジスティクスソリューションズ株式会社様は、お客様のニーズに的確に応え、綿密な提案と実践により高い信頼を得ています。また、消費者の食の安全に対する意識が高まっていることを受け、IT技術を駆使し、大手コンビニエンスストアを中心とした食品の共同配送センター運営などを手がけています。

物産ロジスティクスソリューションズ株式会社様の主な業務内容は次の通りです。

- ① 日本全国の拠点を活かした全国幹線輸送網の運営
- ② 温度帯別域内配送センターの運営
- ③ 原料調達から製品流通に亘る一括物流運営管理
- ④ 納品ルート最適化、配送効率化分析提案
- ⑤ 徹底的な数値分析を基にした物流改善提案・遂行

お客様の声

物産ロジスティクスソリューションズ株式会社
ディリー共配本部 首都圏・中京運輸部
チルド・新横浜共配センター センター長 土屋 欣彦様



当センターではコンビニエンスストア向けのチルド商品400〜500アイテムの配送を扱い、各店舗には1日3回、約180台のトラックで配送しています。当センターのチルド倉庫は全国一の規模で、移転前のセンターに比べると、面積は約3倍になりました。当センターでの集荷から出荷までの所要時間は1時間弱で、オペレーションの効率化により、15分で終了できる商品もあります。配送先は神奈川県下の450店舗を対象にしていますが、今後は700店舗までカバーする予定です。

このチルド倉庫は今年の厳しい暑さでも約5℃に保たれており、問題なく乗り切ることができました。私どもでは常温倉庫を改造してチルド倉庫を作るのは初めてでしたので、不安はあったのですが、横浜支店の野中さんをはじめとしてヤマトの皆様のご努力により、満足いく運営ができるチルド倉庫になりました。

安全・安心への取り組み

物産ロジスティクスソリューションズ株式会社様は、全国の物流ルートをカバーする約1,000台の配送車両を運用しています。配送車両の無事故と配送品質の向上のため、国土交通省が推進する運輸安全マネジメントの導入や、優秀配送員表彰制度を実施しています。

株式会社ヤマトでは、既存の倉庫を改修した「チルド新横浜センター」所在地：神奈川県横浜市（の冷蔵倉庫と事務所の新設工事を施工しました。本工事では、企画から建築・設備・電気工事まですべて株式会社ヤマトで施工しました。

同センター冷蔵倉庫の面積は3,351㎡で5℃±1℃で温度管理されています。気密性、断熱性、保冷性に優れ、商品の品質保持に役立っています。

また、同センター内の事務所の空調設備、トイレなど衛生設備、照明設備を施工しました。照明設備はすべてLEDを使用しています。冷蔵倉庫と事務室をつなぐ廊下の天井には自然光を取り入れることによって省エネを図り均一で柔らかい光で廊下全体を明るくする工夫（光天井）を施しています。



チルド庫の面積は全国一の規模です



チルド庫仕分ライン装置



配送ケースの洗浄機



玄関



自然光を取り入れた光天井



休憩室



男子トイレ

和's コラム 『秋と酒』

「秋」の名称の語源は秋空が、澄んだアキカ
ラ(清明)からきていると云われている。まさ
に、天高き蒼空、又清澄な秋水。秋は水と空気
即ち「WAs」の最良の季節でもある。又、秋は
同時に、結実、稔りの秋でもある。「白玉の歯に
しみとおる秋の夜の酒はしずかに飲むべかり
けり」と若山牧水の歌がある。事実、稔りの秋
と酒とは深い関係にある。秋は野山に果実が
熟し、畑には穀物が稔り、収穫の季節でもあ
る。自然界には熟すると甘味のある果実をつ
ける樹木が多くあるがその実が、動物の食べ
残しや、溜め込みなどで落下した果実は数日
後にはアルコールの匂いを流すようになり、
又これを食べた動物が酔ってふらついていた
という事実もあり、「猿酒」や「養老の滝」の昔
話も、誇張が加えられたとしても根拠のない
空言とは云いきれない。事実、成熟して地上に
落下した果実にはアルコール発酵の素となる
果糖や葡萄糖が豊富に存在し、これに空気中
に浮遊して或いは果皮に付着している微生
物、特にアルコール発酵を起こす酵母が侵入
すれば、容易に発酵現象をおこしアルコール
含有食物が生成することになる。

普通、熟した果実には少なくとも9〜10%
の糖分が含まれており例えば葡萄、柿などでは
13〜15%も存在し、これが発酵すると糖分
の約半分の7%位はエチルアルコールに、あ
との半分は炭酸ガスになつて揮散することか
ら、原始人類は無意識にそれを口にしていた

ことになり、又果実を蓄える容器があれば意
識的に酒を醸すことも出来たことになる。ま
た果実酒の自然生成とは別に、穀物農耕が始
まった頃、貯蔵した穀類中に何らかの理由で
水分が増えて発芽現象がおこり、これによつ
て生成したアミラーゼで澱粉の一部が分解さ
れて葡萄糖が生成し、そこに酵母が飛び込ん
で発酵がおこり、偶然に固形の穀物酒が出来
た場合も考えられる。

伊勢の外宮に供えられる醴酒「レイ
シユ」は粥状の固形物で、土器に敷いた柏の葉
の上に箸で盛って供えられている。古代の日
本では人の口中で原料の穀類をよく噛み、唾
液の酵素アミラーゼの作用で澱粉を糖化し、
これを壺中に吐きため、発酵させて酒を造つ
たとされ、由来、酒造りを、嚼「カモ」醸す」と云
われるようになっていた。そして中国から麴
を利用する技術が入ることにより、奈良時代
には「口噛み」は消滅したようである。

酒と称するものを分類すると、大きく分け
て醸造酒、蒸留酒及び混成酒の三種に分類さ
れる。醸造酒は原料をそのまま果汁の場合に
か又は糖化(穀物の場合)した後、酵母によつ
て発酵させ濾過して飲用する酒。これには清
酒、ビール、ワイン、紹興酒などがある。蒸留酒
は醸造酒を蒸留して造る酒で、多くの場合ア
ルコール分が高く、樽などに貯蔵して熟成さ
せる。ウイスキー、ブランデー、焼酎、茅台酒
(マオタイシユ)などこれに属する。混成種は

醸造酒、蒸留酒に植物の根、花、実などを浸漬
し、その色、香りをつけ、更に糖やアルコール
を加えて濃厚にしたものでアルコールとエキ
ス分が高い。これにはリキュール、梅酒、薬用
種などがある。日本酒には清酒があるが、昔は
酒粕が混在する白色の濁酒(ドロク)をその
まま飲用していたが、後にこれを濾過して清
酒として飲用するようになった。

かつての銘酒に「正宗」という名の酒があつ
たが、これは商標登録に際して清酒(セイシユ)
に対し、これの音読みに類似する「セイシユ
ウ」の当て字「正宗」を登録したものが一般に
通用されたことによると聞いている。我が国
の清酒は独特の香りを持つた酒で、米を原料
としていることと、西欧には例を見ない麴力
びを応用した独特の醸造法によることが理由
とされている。清酒を仕込むに際しては、仕込
容器に、蒸した米と麴、酒母(酵母を純粋培養
したもの)と水を加え発酵させるのである
が、この時、麴の糖化酵素が米の澱粉を少しず
つ、葡萄糖に分解し、更にこの糖を酵母がアル
コール発酵してゆき、糖化と発酵が並行して
進行する形式をとっている。又、名醸の地には
必ず、良い水と、適した気候とがあると云はれ
ているが、酒の約80%は水であることから、昔
の酒造蔵は良質な水が湧出するところに建て
られている。昔から酒の原料水として、「灘の
宮水」が有名であるが、これは天保年間、山邑
太郎左衛門と云う人が、魚崎と西宮の双方の

酒蔵の杜氏を入れ替えてみて、西宮の酒が
優れていたことから、酒造りは水にあり、「宮
水」と名づけるようになったと云われている。

現在はその湧水は殆ど涸れているが、水質
のデータは残され、それによれば、浅井戸の底
部に存在するトリ貝の層から溶解する燐やカ
ルシウム、カリウムなどの無機成分を多く含
有して、微妙に発酵に有利な作用をするとさ
れている。又、ビールの醸造に際しても使用す
る水の硬度成分の影響は大きく、日本の水道
水は軟水なので人工的に自由に硬度成分の添
加が可能なので、天然硬度が高い欧州の水に
比べ有利である。

アルコールと水との関係について面白い実
験がある。まずメスシリンダーに水、100mlをい
れ、その上にアルコール3mlを静かに加えて
全容量を103mlとしてから、僅かに振動を与え
ると全容量は100mlになり液量は3%減量して
しまう。これは水の分子間隙にアルコール分
子が入りこんでしまうことからなり、この現
象はアルコールの濃度が18%のとき最大とな
る。昔、灘の樽酒を関東に輸送すると酒が減量
してしまうと酒屋が云つていたことがあつた
が、アルコール含有量15%の清酒が貨車に揺
られて東海道を下るとき、3%の減量は4斗
(72ℓ)なら約1升強(2.1ℓ)の減量になる理屈
である。そのかわり酒は、まろやかな味になっ
ているわけである。水と酒との関係について
変わった態様の醸造法があり、中国では醸造

用水の少ない地方に固形発酵法なるものがある。
日本の麴は米を蒸して、これに麴カビをつ
ける散麴「バラ麴」に対し、中国の麴は原料の
穀類を餅のように大きく丸め、これにカビを
つける餅麴である。中国の伝統酒に白酒「バイ
チュウ」という蒸留酒があるが、この酒は土の
穴の中で、しかも固形状で原料を発酵させる
「固形発酵法」という方法で造る。醸造に際し
ては原料の高梁(コウリヤン)を粉碎してか
ら、粉殻を混ぜ、散水してから瓶で蒸し、これ
を発酵温度まで冷却してから、餅麴を粉碎し
たものと酵母を加え、これを地面に2m程度
の深さで、縦、横1.3、2.5m位の長方形の「醪
窟」に移し、筵(むしろ)をかぶせ土で覆つて4
〜5日から1カ月かけて発酵させる。この間、
窟の壁や土床に付着している微生物叢(そう)
の作用で固形醪が終わり、これを瓶にい
れこの上に固形のもろみを重ね、底から蒸気
で蒸すことにより、アルコール分が55〜70%
もの高い濃度の蒸留酒が得られ、これを甕に
いれ長く貯蔵熟成させると茅台酒などの銘酒
になる。

又、酒といえば、水分が必ず存在すると思わ
れがちだが、重量や容量が液体の場合より小
で携帯に便利な粉末酒なるものがある。これ
は噴霧乾燥法を用いてアルコールや酢酸など
の水分以外の揮発成分を多く含有する液状食
品を乾燥し揮発成分を殆ど失うことなく、成
分を乾燥した粉末中に高含有率で保有するも

ので、酒類などのアルコール水溶液にデキス
トリン(可溶性澱粉・切手の糊)を配合して、低
温下で噴霧乾燥してアルコール残存率65〜90
%以上の製品とする。飲用に際しては水に溶
解して使用する。

その昔、人類は衣食住について多くの知恵と
努力を重ね、生活の必要性や仲間意識から次第
に集落を作つて生活するようになり、何れの部
族においても、神とか王とか絶対的なシンボル
を中心に於くことによつて、結束を謀る必要が
生じてきた。そして又酒を飲むことにより起こ
る陶酔感はいくつもの精神現象をも超越した神秘
感を生み、神・宗教儀式・酒と云う関係を位置づ
けてきた。現代でも人間どうしが何等かの集合
を構えるとき酒を仲立てにして会合すること
が通常行はれてきている。併し客観的に酒の存
在を考えると、酒の醸造に際して、酵母は自
ら生産するアルコールの濃度は15%程度が限
界であり、これ以上に濃度が高まると障害をお
さるの自然の摂理にかなつたものである。こ
の自然現象は産業の過剰発展が公害発生源と
なる如く、酒についても取返して蒸留酒を造るな
ど、人類の科学技術の発展は諸刃の剣でもあ
り、理性を失つと、究極は地球環境の破壊、全生
物の滅亡にも繋がるおそれがある。適量の酒は
芸術を生むが、過剰の酒は失態をもたらす。秋
の夜に酒を飲むときは静かに反省も加えるべ
きではないかとも想つ。

「和's YAMATO」の由来

ヤマトの漢字の「和」、Water & Airの頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。
ヤマトが発信するメッセージです。

株式会社ヤマトPR誌/和's YAMATO 2013 秋号/2013年10月発行

発行: 株式会社ヤマト(総務部) 群馬県前橋市古市町118

TEL.027-290-1891 FAX.027-290-1896

URL: www.yamato-se.co.jp/

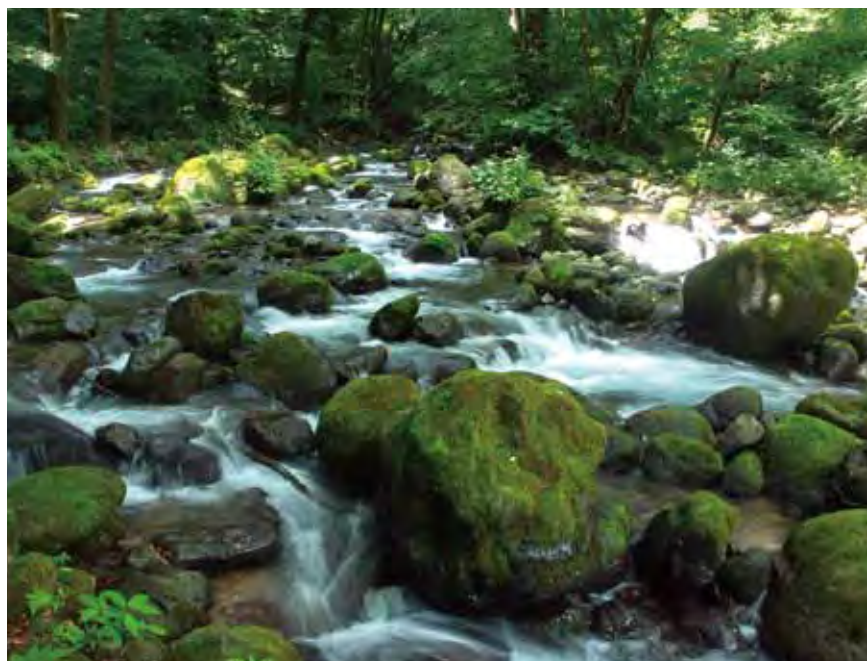


環境省選定 名水百選

しょうじんざわ

尚仁沢湧水

山岳仏教が隆盛を極めた奈良時代、修行の場として山間の湧水で身を清める信者の姿がこの尚仁沢湧水にも現れたと伝えられています。塩谷町のシンボルともいえる高原山麓の一つ「釈迦ヶ岳」の山腹にある尚仁沢湧水は、高原山に登拝する信者にとっては神聖な清めの湧水でした。手つかずの自然の中で湧き出る水量は、日量65,000トンと湧水の中でも指折りの豊富さで、水温は年間を通じて11℃前後と一定しています。真冬でも凍結することなく、水質は天然アルカリイオン水で、ほどよい冷たさで軟らかさを感じることができるでしょう。



湧水は高原山水源の森にあり、関東平野を流れる源流の1つです。



下流域では、飲料水として利用されており、上流では水汲みの人が多く訪れます



尚仁沢湧水が湧き出る塩谷町では、自然の姿を守るために遊歩道を整備しています。また、地域の人たちで活動している「高原山の自然を守る会」など自然保護団体の協力を得ながら、計画的に保全活動に取り組む予定ということです。



清流とともに、森は野生動植物の宝庫となっています。



群馬県前橋市古市町118 〒371-0844

TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

支店/東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北

営業所/軽井沢、伊勢崎、茨城、太田、湘南、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、滋賀

附属施設/大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、教育センター

ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp/

表紙の写真

北アルプスの燕岳(つばくろだけ)。標高2,763m。「アルプスの女王」とも呼ばれ、優雅で美しい山。季節によっては色とりどりの高山植物を見ることができ、四季を通じて比較的 safely に山頂まで登ることができます。撮影者:大谷隆司さん